

## 五感をつかった環境学習プログラム 「富良野自然塾東京校」活動の歩み



**前杉 昌枝** 西武造園株式会社(富良野自然塾東京校インストラクター)

keyword : 地球環境問題、SDGs、環境学習、地域連携、社会貢献

緑の教室

「富良野自然塾東京校」は、北海道富良野市で作家・倉本聰が塾長を務める「富良野自然塾」のコンセプトそのままに、国営昭和記念公園(東京都立川市)内に設置されたコースを使い、地球の環境問題について楽しく体感することができる環境学習プログラムです。西武造園による運営で2014年に開校し、今年10周年を迎えました。開校時より、専属インストラクターとして取り組んできた活動などを紹介します。

### 富良野自然塾東京校について

「富良野自然塾」は、「北の国から」で知られる作家・倉本聰が塾長を務める体験型プログラムとして2006年にスタートしました。富良野プリンスホテルのゴルフ場跡地を、植樹によって元の森に再生することを目標に始まった活動で、地球の構造、その誕生から現在までの歴史を知ること、環境問題の根本を理解することができる内容です。倉本先生が約2年間も費やして監修したプログラムは、専属のインストラクターがドラマチックに表現することで参加者の想像力をかきたてます。

このプログラムの趣旨に賛同した企業や団体が集い、富良野自然塾の活動は全国各地に広がっていきました。2024年4月現在、富良野(北海道)、裏磐梯(福島)、東京、勝山(福井)、京都、大山(鳥取)、今治(愛媛)、

北九州(福岡)の全8校が運営しており、西武造園では西武グループである富良野プリンスホテルとのつながりはもちろん、「みどりや自然の大切さを伝えたい」という理念に基づき、管理運営に携わる「国営昭和記念公園」内に東京校を2014年に開校しました。



写真1 富良野自然塾東京校インストラクター



写真2 「裸足の道」



写真3 「1mの地球」



写真4 「46億年・地球の道」

私は開校に合わせて西武造園に入社し、1か月に及ぶ富良野での現地研修を経て、専属インストラクターとして活動をはじめました。

### プログラム内容

富良野自然塾東京校で体験することができるプログラムは全部で4つあります。

#### ① 緑の教室 (タイトル写真)

酸素を作りだしている“葉っぱ”の話をきっかけに、自然環境の大切さや、森と私たちの関係をお話します。

#### ② 裸足の道(写真2)

裸足になって目隠しをして、芝生、砂利、丸太、土……と仕掛けのある道を歩きます。視覚以外の感覚で、風の音や虫の囁き、若葉の匂い、草の温もりなど、自然を感じていただきます。

#### ③ 1mの地球(写真3)

地球を1mサイズに縮尺したオブジェの前で、地球の構造や、太陽との関係などを分かりやすく解説します。天体としての地球を知ることが、環境を考えるはじめての一步です。

#### ④ 46億年・地球の道(写真4)

地球の壮大な歴史を460mの道に置き換え、実際に歩いて迎えます。いろんな命が生まれつながっていき、そして最後に「人類の誕生」。そこに至るまでの奇跡のドラマを体験できます。

富良野自然塾のプログラムでは、私たちにとってかけがえのない地球のことを学び、未来について一緒に考えます。そして、地球環境の大切さを頭で考えるだけでなく、見て、聴いて、触って、全身で感じてもらうことが大切だと考えています。

さらに、難しい環境問題を子どもでもわかるように楽しく伝えるのが、インストラクターである私の役目です。時には、演劇的手法や流行歌ネタなどを入れて参加者を盛り上げることもあります。さまざまな仕掛けによって、笑って、感じて、最後にはハッと気づきを得られる工夫を施しています。

東京校の開校以来、子どもから大人まで、幅広い年代の方に富良野自然塾を体験していただきました。校外学習や、企業・教育機関の研修として、定期的に参加いただくケースもあります。いろいろな参加者の皆さまから、毎回違う反応が返ってくるのが、とても興味深いです。

### 地域と連携した出張プログラムなどの展開

公園の中だけでなく、さまざまな会場で地域連携、環境学習の取組を展開することもあります。2022年からは、西武造園が本社を置く東京都豊島区で、地元関係者の方々と連携したイベント等も開催してきました。

池袋のサンシャインシティや豊島区立南池袋公園での出張プログラムでは、オフィスビルに囲まれた都市部の環境ということもあり、都会っ子たちの反応はいかに？と心配したのですが、杞憂でした。忘れられないエピソードがあります。会場での呼びかけに足を止めた4歳の男の子が、帰途を急ぐ母親の手を引っ張り、ついには根負けした母親と共にプログラムを体験してくれたことがありました。終了後、私の耳元で「おもしろかったよ。またやりたい」と瞳をキラキラさせ囁いてくれたのです。それだけでも嬉しいのですが、有言実行！彼は次も、その次の開催時にも参加して皆勤賞に。最初は消極的だった母親も、わが子の熱意に動かされていました。

このほかにも、「また来たよ！」と声を掛けてくれる子どもや、「家に帰ってから、家族で植物の絵本を読みました」や「子どもたちが成長したら、またぜひ体験したい。素晴らしかった」など保護者からの感想も。イベントは、地元の中学生もボランティアで手伝いを申し出てくれるようになり、地域の人々との交流や新たな出会い・発見を得ることができました。

昨夏には、豊島区立小学校で高学年向けの出張授業「地球の話～環境問題って何？～」を実施しました。豊島



写真5 小学校低学年向けのプログラム

区が実施する「SDGsアイデアコンテスト/国連を支える世界子ども未来会議 in TOSHIMA」に参加する子どもたちのヒントにつなげる取組として、ワークショップ形式で「生きるために必要な要素」を導き出し、地球の環境について考えてもらうものです。

各小学校を巡っていくうち、その内容の評判を聞きつけた1～2年生の先生からも出張授業の相談がありました。低学年向けなので内容をアレンジし、紙芝居を使ってお話をしてから、近くの公園に移動して富良野自然塾の「緑の教室」「裸足の道」プログラムの一部を行うことで、身近な自然環境を楽しく体感してもらいました(写真5)。すると後日、子どもたちから、お礼のメッセージやイラストが届いたのです！私の似顔絵も描かれており、子どもたちが地域の緑に親しむ気持ちが込められていて、大変感激しました。

また、昨年には立川商工会議所が主催する「環境コミュニティ会議」に登壇し、「世代を超えてつなぐ環境学習」をテーマに、わが娘と同じ「Z世代」の若き環境活動家と対談する機会がありました。さらに今年5月に商工会議所の創立70周年を記念した環境国際会議「碧つなぐグローバルコミュニティ」が国営昭和記念公園の「花みどり文化センター」で開催され、富良野自然塾東京校のデモンストレーションやSDGsをテーマにしたワークショップを行いました。環境国際会議と銘打っていますが堅苦しいものではなく、国内外の参加者、大人も子どもも一緒にあって、持続可能な環境づくりを考えていくイベントです。国際色豊かで、多種多様な人々との交流があり、貴重な経験となりました。環境問題に国境はありません。この出会いをきっかけにまた、どんな化学反応が起きる

のか、ワクワクしています。

## 10周年の節目を迎えて、今後の展望など

今年、富良野自然塾東京校は開校10周年を迎えました。これまで応援してくださったすべての皆さまに感謝の気持ちでいっぱいです。

西武造園では、富良野自然塾東京校のほかにも、ミツバチを通じて生物多様性や身近な自然環境を考えていただく「はち育®」や、自然遊びを通じて植物とふれあう体験プログラムなど、管理運営する公園などでのさまざまな環境学習に力を注いでいます。また、私のような専属インストラクターの育成にも本格的に取り組むため、2020年からは子会社を含めた横断的な連携の仕組みとして社内プロジェクトチームを発足しました。西武グループビジョンで掲げられた「地域・社会の発展、環境の保全に貢献すること」、「常に、自然環境、地球環境への配慮を忘れないこと」を大切にしつつ、変化していく環境や社会の課題、ニーズに応じていけるような「サステナビリティアクション」を推進しており、多くのメンバーによる意見交換や企画立案、専門スタッフの育成研修等に取り組んでいます。さらに、他部署や関係団体とも連携し、環境学習ができる公園や緑空間の創出、西武グループが保有する森林でのプログラム実施など、環境学習の実践の場づくりにも尽力しています。

私もこの10年間インストラクターとして活動してきましたが、熱意ある次世代を育てていくことが今一番の目標です。私の好きな「ハチドリの一ひとしく」という南米に伝わるお話があります。一人ひとりでは微力でも、問題に気づき、自分でできる努力をして周りを巻き込めば、少しずつ何かが変わるかもしれない。そのために、仲間とともに、これからも自然の大切さや環境問題への思いを一人でも多くの方へお伝えしていきたいと思います。その活動が、「地球環境の担い手となる方々の心に種を植える」ひとしくになれば、嬉しいです。

### ●前杉 昌枝(まえすぎ まさえ)

「富良野自然塾東京校」開校に合わせて、2014年に西武造園入社。管理運営する公園などでの環境学習イベント企画・運営や、インストラクターとして自然の魅力を発信し続けている。